

教えて 学んで 楽しもう 学びのトレジャー

Vol.4

2024年1月26日

学生が主体となった
小学校英語の実践的な学び
—現場へつなぐ「人づくり」のために—

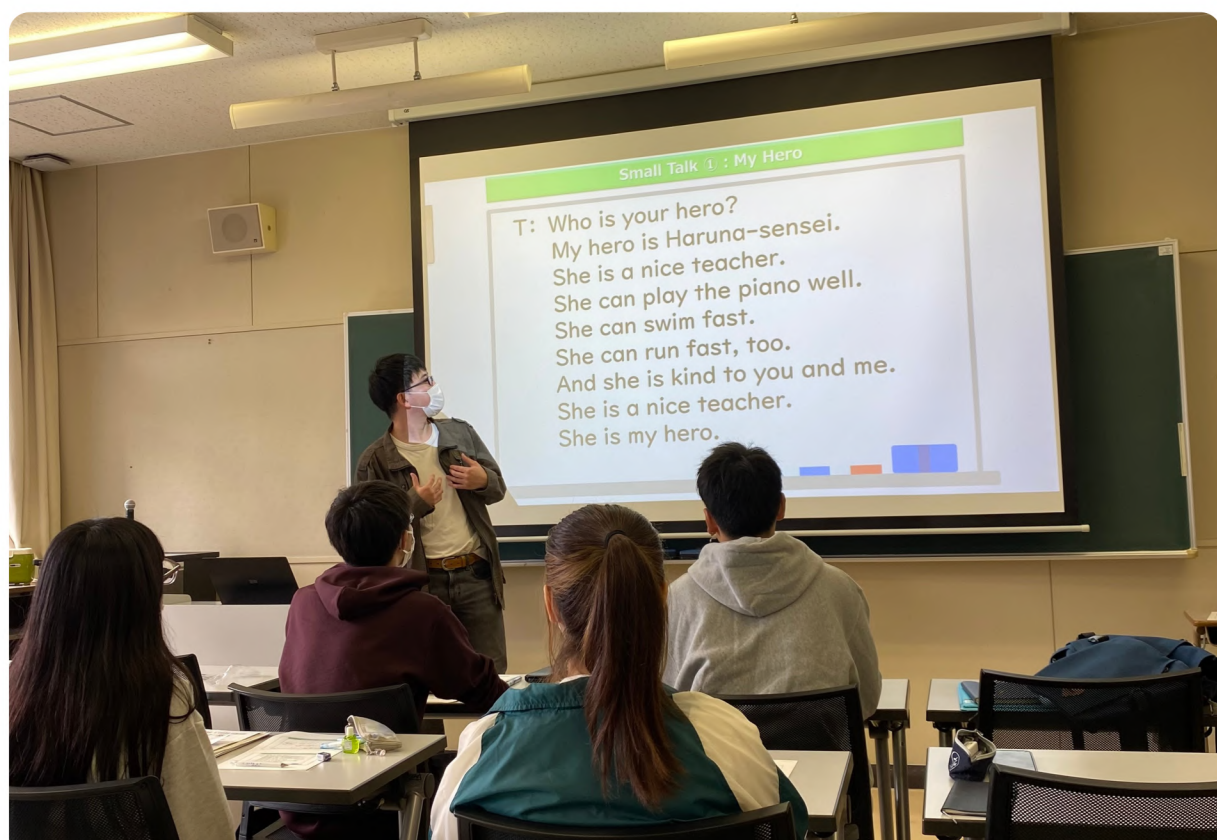
盛岡大学

佐藤 彩香 先生

教育現場の多忙化やなり手不足が課題となっている昨今、一步手前の教員養成段階における取組をお伝えし、何か一つの希望となればと思ひ筆を執らせて頂きます。担当科目の一つ「児童英語教育講座」。この講義の目指すところは、個人が目的意識をもち、目的達成のために課題を解決していくこと。その過程で、仲間と協働し相互の成長にも寄与し合えること。「小学校英語」を内容としてもちつつ、必要な資質・能力を身に付け、「人」として成長していくことも願っています。最終ゴールは公立小学校での授業実践。今年度は6学年の3学級にご協力頂き、全員が授業を行いました。



スタートは、自分の既有知識をもとに現状を自覚する「己を知る」段階。講義形式で知識を与えることはあえて行いません。次に、自分の探究したい「課題」をプレゼンする段階。今年度は、「Small Talkの活用」や、「授業のユニバーサルデザイン」、「小中連携」といった視点が挙げられました。その後は、グループごとに課題解決の視点を持ち、一度模擬授業を構想します。「百聞は一見に如かず」という言葉から、一度大学を離れ近隣の小学校へのフィールドワークにも出かけます。ここまでが知識を蓄える「インプット」。この後、小学校6年生を対象にした授業案の検討を繰り返し、実地授業という形で学びの「アウトプット」を行いました。



学生は学びの主体となり、自分が進んでいく方向性を決め、目標達成のために何が必要かを考えるなど主体性をもち、年間を通して探究的に学ぶ姿が見られました。授業内容はもちろん、このような“先生”としての資質や能力は、子どもと多くの時間を過ごす小学校の先生だからこそ、いずれ子ども達にも伝わっていくはずです。大学における教員養成も「人づくり」という点で小学校と通ずるところがあり、その中でどのような「学びのデザイン」ができるかが自分自身に課せられた課題の一つと思ひ、日々取り組んでいます。



開隆堂